

事務局から

▼年々会員数の減少により、研究所運営に必要な財源を確保することがきわめて厳しく、年4回の「教育情報」の発行回数を3回に減らす提案をしています。それが総会で認められれば、次年度は2012年1月と6月が発行予定です。

▼今後の研究所のすすめ方について、改めて、会員の皆様にアンケート調査をお願いすることになりました。忌憚のないご意見をお待ちしております。余裕のない締め切り(10月11日)ですが、是非ご協力をお願い致します。

▼2005年以来、佐渡の会員と境野健児氏(福島大学)の協力をいただいて、佐渡島の小中学校統廃合問題と地域の伝統文化を調査・研究をすすめてきました。次号108号は、その総まとめを特集する企画を考えております。本来は別冊の報告集とすべきですが、財政上やむを得ません。

(内山)

編集後記

▼家庭で戦争体験が語られることが難しい時代になりました。「つくる会」の教科書の採択が問題になっているときだけに、子ども時代の戦争体験を特集しました。なかには話したくない、思い出したくない方もおられたと思います。感謝いたします。

アジア・太平洋戦争を侵略戦争としてとらえている方々は、各種世論調査を通じて依然として過半数(消極派も含め)を越えています。

▼佐渡の菊地さんには菊地家三代(祖父母、自分)の戦争体験を語ってもらいました。昨年、菊地さんが出版された『佐渡に生きる』に掲載され評判を得たものです。今回、本誌のために書き直しもらいました。いわば菊地家の家族史ですが、戦争に翻弄された庶民の家庭の様子が、穏やかな語り口から恻々として胸をうちます。

▼連載「保健室の窓から」が今回で最終回になりました。本誌が現場からの発信の記事が少ないなかで、貴重なレポートでした。

田口さんの原稿はいつも締め切り間際に入ってきます。多忙なかで推敲に推敲を重ねている様子が偲ばれます。なんといつてもこのレポートからは等身大の子どもの声の音が聞こえてきます。

▼「この人に聞く」は今回、立石先生をお訪ねしました。「研究、教育、組合活動」のいずれも大切にして来た先生に、原発過酷事故の講演などで多忙なか、じっくりお話しをお聞きしました。(大滝)

にいがたの教育情報 No. 107

2011年9月30日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 小林昭三

〒951-8116

新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025)228-2924

振替口座・00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。